

2013年合格目標

TAC 行政書士講座・無料公開セミナー

無料公開セミナー

本試験へ向けてラストスパート！

**「本試験本番へ向けて
残り時間の過ごし方」**

《セミナーの内容》

1. 試験傾向からやるべきことを考える
2. 効率的スケジュールの作成
3. 時間を無駄にしないための学習方法
4. 合格点を作る

1. 試験傾向からやるべきことを考える

(1) 難易度：平年通り

難易度は平年通り、問われる知識も基本的な条文・判例でした。ただし、問われ方は事例を使った応用的な問題（民法と記述式で顕著）も見られます。

あなたが合格するためにすべきこと、それは基本的な条文・判例の知識を固めた上で、その知識を柔軟に使えるだけの応用力を鍛えることです。

(2) 基本的な条文・判例とは？

「基本的な条文・判例」とは、過去問で出題された条文・判例です。過去問（昭和 62 年以降のもの）で出題された知識を使えば、4 割程度（120 点程度）得点できます。まずは、過去問をこなすことが合格に必要な実力を作る一番効率的な方法です。ただし、それだけでは合格ラインに到達できませんから、過去問以外の「+α」は必要となります。

この「+α」を見極めて、そこを集中的に学習することが、残り時間を効率的かつ有効に使うコツです。「+α」とは、過去問で出題されたところの周辺（e x. 頻出条文の前後の条文や、1 項が頻出であれば 2 項、頻出判例の出題されていない判旨部分）です。過去問をベースに行政書士試験対策用として書かれた教材を徹底的に学習しましょう。

(3) 知識をつかう練習をする

「過去問 + α」の知識を使って、問題を解く練習を繰り返します。

(4) 合格するためにやるべきこと

- 第1 過去問をしっかり学習し、4 割得点の土台を固める
- 第2 過去問を土台とする 120 点に「+α」部分を積み上げる
- 第3 積みあがった知識を使う練習、アウトプットを繰り返す

2. 効率的カリキュラムの作成

(1) 残された時間の算出

① まずは残り時間を算出しましょう

- ・ 1 週間で勉強に割くことができる時間は、週_____時間。
- ・ 残り_____週 × 週_____時間 = 本試験までに残された時間

② 配点割合に応じて時間を使います

【法令科目】(81.3% 244/300) 残り時間×約 0.82=法令の残り時間

(_____時間) × 約 0.82 = 法令の残り時間 (_____時間)

基礎法学 (2.6% 8 点)

配点小・分量多・難易度易

(_____時間) × 約 0.03 = 基礎法学の残り時間 (_____時間)

憲 法 (9.3% 28 点)

配点中・**分量少**・**難易度易**

(_____時間) × 約 0.10 = 憲法の残り時間 (_____時間)

行政法 (37.3% 112 点)

配点大・分量多・難易度中

(_____時間) × 約 0.38 = 行政法の残り時間 (_____時間)

民 法 (25.3% 76 点)

配点大・分量多・難易度高

(_____時間) × 約 0.24 = 民法の残り時間 (_____時間)

商 法 (6.6% 20 点)

配点小・分量多・難易度高

(_____時間) × 約 0.07 = 商法の残り時間 (_____時間)

【法令科目の得点戦略】

配点の高い行政法、民法と、学習分量が少ない憲法を得点源とします。

【一般知識等】(18.6% 56 点) 残り時間×約 0.18=一般知識の残り時間

(_____時間) × 約 0.18 = 一般知識の残り時間 (_____時間)

政経社会等 (9.3% 28 点)

配点小・分量多・難易度高

(_____時間) × 約 0.08 = 政治等の残り時間 (_____時間)

情報公開等 (5.3% 16 点)

配点小・**分量少**・難易度中

(_____時間) × 約 0.06 = 情報公開等の残り時間 (_____時間)

文章理解 (4.0% 12 点)

配点小・分量多・難易度低

(_____時間) × 約 0.04 = 文章理解の残り時間 (_____時間)

【一般知識の得点戦略】

情報通信・個人情報保護で 4 問、文章理解で 2 問の得点を目指します。

政経社会は、講義 & 直前期の答練を中心に組み立てる。

(2) ここで算出した時間を、巻末 400 時間表に割り振ります。

3. 時間を無駄にしないための学習方法

(1) インプット時間は極限まで絞り込む

直前期は、すでに体系的に知識を入れる時期ではありません。インプットに割く時間を極力減らし、アウトプット時間を十分にとります。比率としては、インプット0.5～1に対して、アウトプット9～9.5の割合です。

テキストを頭から読み込んでいくのではなく、問題を解きながら、間違えたところをテキストに戻って復習します。そうすることで、分かっているところに時間を消費せず、分かっていないところに時間を割くことができます。

(2) アウトプットのやり方

本試験までにやる問題演習は、その問題に正解するためではなく、あいまいな知識を発見して、その知識の穴をピンポイントで埋めるためにやります。

① 曖昧な知識をどれだけ増やしても本試験では使えない。

問題を解いて、正確確実に判断できる知識が、本試験でも使える正確な知識です。曖昧な10の知識より、正確な3の知識です。

② 正誤判断を正確にできる知識を獲得するための問題演習法

正誤判断の根拠となる条文や判例を説明できれば、○や×をつけ、できなかった肢や、正誤判断に時間がかかった肢には△をつけます。

【問題1】正しいものを選べ。

- | | |
|----------------------------|-----|
| 1. → 見たことはあるけど、正誤判断がつかない | → △ |
| 2. → なんとなく正しいと思うけど根拠がわからない | → △ |
| 3. → 1分間考えて誤りと判断 | → △ |
| 4. → 正しいと判断。根拠判例も言える | → ○ |
| 5. → 誤りと判断。根拠条文も言える | → × |

肢4、肢5は分かっているので、軽く確認すればオーケーです。

肢1、肢2、根拠条文、判例を見直し。誤りの肢は特に大事にする。条文や判例のどこが誤りに変更されているのかをチェックします。

肢3は、なぜ正誤判断に時間がかかってしまったのかを自己分析。知識が曖昧なところを条文・判例でチェックします。

問題には正解したとしても、△の選択肢は知識が曖昧ですから、その肢に関わる条文知識、判例知識は一つ一つ丁寧に確認して、記憶します。それを何度も何度も繰り返し行うことで、△の数は減っていき、すべて○×を正確につけることができる知識、本試験でも使える知識が増えていくわけです。

（３） 学習計画に基づく学習指針

学習スケジュールを立てた場合、陥りやすいのが、「計画倒れ」になってしまうこと。１日でやろうと思ったところが終わらず、残した部分を翌日に回す。さらに終わらなかったところはまた翌々日に、さらにその次の日に。結局、１科目の終了予定日には半分しか終わっていない。それが連鎖して、計画は終わらないわ、モチベーションは下がるわで、思うように学習できないなんてことがあります。

学習指針として、一日にやろうと思っていた計画が途中で終わった場合、残っていても気にせず、翌日は、翌日にやろうと思っていたことから学習を始めます。やり残したところは、次に回す時に、必ず間違えてくれます。それよりも、全くやっていないところが出てきてしまうことの方が問題です。３回４回と回していくうちに、やり残したところをやる機会が生まれるでしょうから、それまでやらなくても構いません。

時間がないけれども、どうしても一日に計画したところは触れておきたいということであれば、解く予定だった問題の肢１・２をすべて解くというようなやり方が有効です。

4. 合格点を作る

（１） 直前期答練の復習の仕方

① 得点をつける

⇒ 180点オーバーなら素直に喜ぶ！！

⇒ 180点なくても腐らない！！

合格者のほとんどが試験１～２週間前に合格ラインに到達する！

② 択一・多肢のみで150点～160点を目指す。

⇒ そのための復習方法を考える。

択一 54問＋多肢 3問（択一にして6問分）＝択一にして60問

⇒ 150点なら60問中38問の得点が必要

↓

ここにもっていくために、どこをやるのが負担が少なく効率的か？

（２）星獲り表を作成 → どこで得点を作るか？

《法令択一》 120点獲得を目指す。

基礎	2問中	1問（ 1問）	4点（ 4点）	1問2分	計 4分
憲法	5問中	3問（ 2問）	12点（ 8点）	1問3分	計15分
民法	9問中	6問（ 5問）	24点（20点）	1問4分	計36分
{	総則	2問中	2問（ 1問）		
	物権	2問中	1問（ 1問）		
	債権	4問中	2問（ 2問）		
	親族相続	1問中	1問（ 1問）		
行政法	19問中	17問（15問）	68点（60点）	1問2分	計40分
{	法理論	6問中	5問（ 4問）		
	行手法	3問中	3問（ 3問）		
	行審法	2問中	2問（ 2問）		
	行訴法	3問中	3問（ 3問）		
	国賠法	2問中	2問（ 2問）		
	地自法	3問中	2問（ 1問）		
商法	5問中	3問（ 2問）	12点（ 8点）	1問2分	計10分

40問中30問（25問）120点（100点）40問 計105分

《一般択一》 40点獲得を目指す。

政経情	11問中	7問（ 4問）	28点（16点）	1問2分	22分
文章	3問中	3問（ 2問）	12点（ 8点）	1問6分	18分

14問中10問（ 6問） 40点（24点） 計40分

《多肢選択》 40点獲得を目指す。

12空欄中10個（ 8個） 20点（16点） 10分

《記述式》 30～40点獲得を目指す。1問MAX10分 3問で**25分**

択一＋多肢 180点なら 0点

択一＋多肢 140点なら40点

（３）弱点の補強・弱いところを集中的に復習する

⇒直前期答練は弱点補強アイテム

正解した問題、分かっている肢ではなく、不正解だった問題、分からなかった肢を集中的に補強していく。

（４）優先順位

- ① 得意なのに間違えた問題（ケアレスチェック）
- ② 苦手意識を感じないところ（短時間での復習が可能）
- ③ 難易度が易しい問題（合格者なら解いてくる問題）

（５）試験当日

- ① 試験官がしまってくださいというまで記憶喚起
- ② 始まる前に大きく深呼吸
- ③ 難しい問題が出てもテンパらないと自分に言い聞かせる
- ④ 誰も分からない問題なんて、せいぜい５問程度。難しい問題が２、３問続くとテンパってしまうが、４問目には必ず優しい問題が来るから！と思いながら解きすすめる。
- ⑤ どのような状況になっても気にしない
隣に筆圧の強い人 ⇒
隣に貧乏ゆすりする人 ⇒ 電車のなかで勉強してると思えばいい
独り言が多い人 ⇒ 喫茶店のなかで勉強していると思えばいい
- ⑥ 得意なところから解く
解ける問題を落とすのが一番よくない。行政書士試験に限っては「おいしいところから食べる！！」ことが必須。それで、本試験の解く順番を決める。⇒ ただしマークミスは絶対に注意

[illegible]

[illegible]

